祝辞・挨拶

祝辞

東京理科大学学長
藤嶋 昭 先生

ソフトボール部創部40周年、誠におめでとうございます。しかも、2年連続での学長賞受賞、ほんとうにおめでとうございます。学長賞は大変な激戦です。これも当部の素晴らしい歴史と伝統の下、特に丸山先生・柳田先生の素晴らしいご指導の下で、歴代部員の皆様が大活躍をされているからであると思っております。理科大の誇るべきソフトボール部として、これからもますます大活躍していただきたく思います。

ソフトボール部がこれだけ良い成績を残していることについて、部員諸君が、文武両道を、“極める”という努力をされているからであると思います。宮本武蔵の“五輪書”には、様々な修行において何より大切な継続して努力することを意味する言葉として『鍛錬』があります。『鍛』とは、たゆまず休まず基礎から一千日努力することです。これはソフトボールにも通じることです。『錬』とは、その十倍の、たゆまず一万日継続して練習することです。それはまさにソフトボール部がこれまで実行してきたことであり、それによりこれだけの立派な成績を残しておられるのだと思います。

どんな場面においても、短所・欠点を『鍛錬』で補っていかなければならないと思います。そして、もう一つよく知られている言葉として、江戸幕府の三代将軍徳川家光の兵法指南役だった柳生宗矩の言葉には、『刀剣短くば一歩進めて長くすべし』とあり、戦うとき自分の剣が短い、相手の剣が長いときはどうしたらよいか、一歩進めれば長い剣を持った人に勝てる、積極性こそ最も大事だと説いております。日々努力しながら、しかし、まだ足りないものがあれば積極性をもってそれに立ち向かえば勝てるということです。

丸山先生・柳田先生のご指導の下で、ソフトボール部が40周年を迎えて、これだけ輝かしい成績を上げておられる、このことはこの二つの話と共通するのではないかと考えております。

本学の素晴らしい先生、千葉県協会会長・理事長をはじめ関係各位に多数ご列席いただいています。人と人とのご縁を大事にされる丸山流でありますが、それをしっかり受け継いで、東京理科大学の誇るべきソフトボール部として、さらに立派に充実、発展していってください。40周年、誠におめでとうございます。

挨拶　熱誠－素直な心と謙虚な姿勢－

東京理科大学体育局ソフトボール部名誉顧問
東京理科大学　名誉教授
丸山 克俊

本日、ここに創設40周年記念式典&パーティーが盛大に開催することができました。ご参集いただいたすべての皆様とともに、この大きな喜びを分かち合いたいと存じます。また、この3月末日をもって2期8年の任期満了となる学長・藤嶋昭先生をはじめ、学内外のご要職にある皆様に多数ご臨席賜りました。有り難く、厚く御礼申し上げます。

当部は、1977年9月1日を創部記念日としてスタートいたしました。創設時に掲げた「旗」は、「全国制覇のロマンを求めて」でありました。途中、「日本一のロマンを求めて」に変更いたしました。その意図は、学生生活において、部員一人ひとりが求める“日本一”は様々あるだろうという単純な考え方でありました。青年時代に自らの“日本一”を追求する“心（芯）棒”を自らつくりあげることは最も大切なことです。それは、自らの“熱誠”によって支えられます。「熱意と誠意は人心を動かし協力を生む＝熱誠」は、小生が最も好きな言葉です。ただし、『人心を動かす』ためには、常に“素直な心と謙虚な姿勢”が問われます。これが、運河球場で球友とともにお互いに切磋琢磨して求め続けたい精神でありました。一人ひとりの“日本一”が強く結集したところに“インカレ日本一”があります。

小生は、5年10ヶ月前に「胃がん手術」をし、幸運にも命をもらいました。この40周年を機に、OB会の全体の活動は、現顧問・監督、柳田信也先生にお任せし、これからは、長い間年賀状をやりとりさせていただきながら久しくお目にかかっていない諸氏と、時々、飲み語り歌いたいと決意しております。その貴重なひとときこそが、自らの人生を今一度振り返り、反省し、新たなロマンに向かう活力を与えていただけるものと期待しております。大いにおつき合いください。また、同期会などの際には、是非お気軽にお声かけください。

この4月から、おそらく日本で初めてあろう「エンジョイ野球（ティーボール）クラブ」を幼稚園において週1回のペースでスタートさせます。そして、野球界への底辺拡大に貢献するとともにビジネスモデルを作りプロ野球選手のセカンドキャリアにも貢献したいと決意しております。その成功のために、今、“素直と謙虚”を肝に銘じて日々学習中です。

関係各位のますますのご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

挨拶　40周年に寄せて～100年かかっても日本一を 夢の継承～

東京理科大学体育局ソフトボール部顧問・監督
東京理科大学　専任講師
柳田 信也

東京理科大学ソフトボールの40周年に際し、心からお祝い申し上げます。また、顧問といたしましては、この歴史を現在まで支えてくださったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。当部は1977年9月に正式に発足いたしました。私は1978年生まれでございますので、ほぼ同じ年月を過ごして参りました。手前味噌ではございますが、人生においてはたくさんの歓喜、憂慮などがございました。ソフトボール部にも、同様にたくさんの出来事を乗り越えて、現在があるかと存じます。大変感慨深いことですし、一員として関われていることを幸せに思います。このようなチャンスをいただいた丸山克俊先生には感謝の念に堪えません。

思えば、私と丸山先生の出会いは、まさに合縁奇縁と呼べるものでした。詳細は40周年記念誌をご覧いただければと存じますが、たった一言の「こんにちは、埼玉大学の柳田と申します」という挨拶で私と先生の関係は始まりました。たった一言と申しましたが、もしかするとこのたった一言が、日本一のロマンの根底にはあったのかもしれません。インカレで優勝することは目標であるけれども目的ではない。この根幹をなすのは、人物を育て、社会で活躍するリーダーを育成するという東京理科大学ソフトボール部の哲学にあります。その視点から、日常的に人間観察を怠らず、自己研鑽を積んでいらっしゃった丸山先生には、“たった一言”の挨拶ではなかったのだと今になっては感じております。実力主義を標榜し、勉学に精進しなければならない本学において、ソフトボールで日本一を目指すことは、当然のことながら容易ではありません。容易ではないことを目指すことにロマンがあります。このロマンは、顧問や監督が変わっても変わらないロマンであり続けるかと存じます。そのバトンを受け取ったものとして、強くそのことを自覚し、日々精進して参りたいと思います。部員諸君には、たった一言の挨拶を大事にできる人物であってほしいと願っています。

40周年という一つの節目を迎えた今年度、全日本大学選手権大会において、激戦を制し、勝利を収めることができました。この舞台に立つことの意味を教えてくれた、本当に楽しい時間でした。今このようにソフトボールができている環境に感謝を忘れずに、誰からも応援をしていただけるように、明るく楽しく爽やかに活動を継続していくことを皆様に誓います。今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますとともに、東京理科大学ソフトボール部の日本一のロマンを共有していただけましたら幸甚に存じます。

挨拶

東京理科大学ソフトボール部ＯＢ会会長
千葉　宏

東京理科大学ソフトボール部の創部40周年を心よりお慶び申し上げます。丸山克俊先生、柳田信也先生をはじめご指導いただいた先生方、支えてくださった皆様、ソフトボール部員、ソフトボール部卒業生に深く感謝申し上げます。

東京理科大学ソフトボール部OB総数は40年の歴史を経て現在260名超となりました。1977年9月1日に丸山先生と初代・第2代の先輩方が創設された部がこの集まりにつながり、2017年には、丸山先生から継承された柳田先生と第37代～第42代の後輩たちにより40周年を迎えました。創部いただいたことに感謝し、その後初代から第42代まで一代も途絶えることなくつながり、現在も継続いただいていることに感謝いたしたいと思います。現在も部が続いているからこそ、創部何周年という表現もできるのだと思います。

前回30周年記念式典・パーティーを行い記念誌を発行した後、この10年間は様々なことがありました。最も大きな出来事として、ソフトボール部を指導される顧問･監督の先生が丸山先生から柳田先生に引き継がれたことがあり、今回の40周年記念企画では丸山先生から柳田先生への「日本一のロマン」のバトンタッチ、夢の継承を大きなテーマとしております。直近10年間を中心に40周年を振り返り、次の大きな節目である創部50周年(創部半世紀)に向け、しっかりとした歩みを続けてまいりたいと思います。

さて、現役の部員諸君の大活躍は、OBに大きな夢と勇気、そして感動を与えてくれております。特に全日本大学選手権大会（インカレ）出場に向けての挑戦や、インカレ出場、インカレでの活躍は、近年、大応援団が結成され、OB相互の親睦にもつながっております。昨年岡山インカレでは、強豪に激戦の末、勝利を収め、「歴史的な勝利」と観戦・応援したOBたちから熱い詳報が伝えられたことは、記憶に新しいところです。

「100年かかっても日本一を」この言葉も丸山先生から柳田先生へと継承されました。今年の正月に箱根駅伝で4連覇した青山学院大学陸上競技部は今年創部100周年とのことです。競技は違っても、良い目標として励みにしていけるのではないかと思います。

あらためて、東京理科大学ソフトボール部の40年間の歩みに関係されたすべての皆様に深く感謝を申し上げます。次の10年後の50周年、その先の100周年へとつなげていけるよう、仲間の輪、球友の輪を広げていけるよう、現役部員とOB会が一丸となって誠心誠意、鋭意努力する集団でありたいと願っております。

ご来賓の皆様には、今後も当部へのご指導とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

祝辞

東京理科大学体育局ソフトボール部名誉顧問
東京理科大学　名誉教授
尾立 晋祥 先生

40周年本当におめでとうございます。私は定年になりまして今年で12年です。こういった老齢の者をこういう所にお招きいただくということは、私としては晴天の霹靂と申しますか、大変驚いておりますと共に、感謝申し上げております。

人間で言いますと40歳は、体力・知力、両方が一番噛み合った良い時代であろうと思います。東京理科大学ソフトボール部におきましても、まさに円熟期に達して、これから一皮二皮と剥けまして丸山先生がおっしゃったような形になっていくのだろうと思っております。

私はソフトボールという競技をあんまり存じ上げてなかったのですが、定年になる頃に丸山先生から是非名誉顧問になっていただきたいということで、おつき合いさせていただくことになり、大変光栄に存じております。その時に一番強く印象に残ったのは「日本一」です。私は物理学者でございますから別の言い方をしますと、丸山先生は勝利方程式を使っておられると、勝利のための全てのソリューションを見つけたのだな、と私はその時感じまして、勝利方程式、これを別の言葉で表現し、はなむけの言葉にしたいと思います。

勝利方程式というのは、勝利に向かって全ての道筋ができているということであり、大変重要なことであります。私はこれを「先見性」と呼んでおります。これを養うことが大切です。「先見性」ということは英語で言うと“Pre・Science” つまり“Prescience”です。本学の前の理事長が“Con・Science” 、これは「良心」、21世紀は「良心」に向かう、ということを掲げたことがありますが、私は“Pre・Science”が今は重要じゃないかと考えております。

本当に世界のリーダーが“Prescience”を持っていれば戦争なんか起こりえないんです。また、国民が“Prescience”を持っていれば良いリーダーを選び出すのです。だからソフトボール部においては、部員各人が“Prescience”を磨き、実行していけば自ずと日本一になると私は確信しております。

今、囲碁の世界で人工知能、AIと勝負して何手先を読んだか、これが勝負の分かれ目になっているようですが、“Prescience”はまさにそれにあたります。また、渋谷のスクランブル交差点であらゆる方向からみんなが渡ってくる。誰もぶつからない。これを欧米のメディアは大変驚嘆して放映しております。我々は子どもの時から“Prescience”を磨いてきてるんじゃないかと、これを更に磨きをかけよう、というのが私の今日のメインテーマでございます。

そうは言っても、私自身が“Prescience”ということを意識するようになりましたのは60過ぎてからでございます。2006年の理工学部アルバムに“Prescience”を磨こうと書いた２ページ位の文章があります。今日はそのことを、12年振りに現役の皆さん、そしてOBの皆さんにこれをはなむけとしてお話しさせていただきました。本日はどうもありがとうございました。

祝辞

東京理科大学学生支援センター長（教授）
藤代 博記 先生

40周年誠におめでとうございます。そして、40周年を心よりお祝い申し上げます。

40年前といえば、実は私が東京理科大学に入学したときになります。理工学部物理学科出身で1978年、この部ができた1年後でもあり、大変懐かしい思いです。そのころに創部したソフトボール部がずっと継続して活躍されていて、OB諸氏と現役の皆様が集う素晴らしいコミュニティが形成されていることを羨ましいと思いますし、理科大同窓としても誇らしく思うところであります。

40年前に入学した一学生として思い出話をさせていただきます。当時の物理学科の平均在学年は5.5年でした。1年から2年生に上がるときに半分落ちていました。だいたいどの学部学科も似たようなものでした。元々、関門制度でした。ご存知の通り関門科目を一科目でも落ちると留年してしまう。それはまだいいのですが、一科目ではさみしいだろうということで他の科目も合わせて不合格になるという“ありがたい”時代でした。そういった学業も厳しい時代の中で、ソフトボール部を創られ、継続して活躍されていて、今年も学長賞受賞ということで、非常に素晴らしいことだと考えております。深く敬意を表するとともに、創部40周年から50周年に向かって更に発展されることを心からご祈念申し上げ、私の祝辞とさせていただきます。

祝辞

公立学校法人山陽小野田市立山口東京理科大学理事長
（前 学校法人東京理科大学常務理事）
池北　雅彦 先生

40周年誠におめでとうございます。本日はお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

一年前まで、東京理科大学野田キャンパスにおり、大学の運営の一端を私もお手伝いをさせていただきました。その際には、ここにおられる丸山先生、尾立先生、兵庫先生、清岡先生、藤代先生、新しく顧問になられました柳田先生をはじめ野田キャンパスの先生方には、大変お世話になりました。

特に、丸山先生とご縁をいただいたのはたぶん20年以上前からだと思いますが、学内の懇親会などで二次会を含めよくご一緒させていただきました。その頃から、ソフトボール部の活躍ぶりはよく伺っておりました。また、本学の月刊（現在、隔月刊）科学教養誌「理大 科学フォーラム」の編集委員会でも長い間ご一緒させていただきました。そして、丸山先生には、「理大 科学フォーラム」編集委員長をお願いし、2年余にわたり大きなご貢献をいただきました。忘れられない思い出です。

丸山先生から柳田先生への見事なバトンタッチがなされ、ここに40周年を迎え、これから皆々様が日本一を目指してますますご発展されることをご祈念申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞

東京理科大学教授（学校法人東京理科大学理事）
兵庫　明　先生

創部40周年誠におめでとうございます。

私が理科大に入学したのがちょうど1980年ということで、ソフトボール部が創立して3年後ということになります。その頃の理工学部グラウンドといえば風が吹くと砂が舞うような状況でして、そのなかで授業の後にみなさんは練習されていたんだろうなと思います。いろんなご苦労があったものと拝察いたします。創部された頃の皆様には、特に感慨深いものがあるのではないかと拝察いたします。

池北先生から野田担当理事を引き継ぎ、皆さんの日本一にかける熱い情熱を、理事の立場から微力ではありますけれども、協力させていただきたいと思っております。

丸山先生がほんとうに熱い心でこのたくさんの“ご縁”を創り上げられて、そのバトンが柳田先生に渡って、どんどん成長していくのではないかと考えております。

それにしても、本日のこの会場の設営からOB会皆様の姿勢や顔つきを拝見し、素晴らしいソフトボール部の魅力と迫力を実感させられております。皆様に心からエールを贈りたいと思います。

本日はほんとうにおめでとうございます。日本一目指して頑張ってください。

祝辞

東京理科大学教授（体育研究室代表）
清岡 智 先生

この度は40周年誠におめでとうございます。

ちょうど創部の時に私は理科大学生で体育会の本部役員を務めていたころでした。本日、OB席にお座りの方の顔を見ると、当時、体育会から体育局へなったばっかりで、一緒に体育局を盛り上げていこうと頑張った同志の顔も見えて大変懐かしい思いです。

体育局の顧問としても、いろんな部活がある中で、実力・学生の質・OB会のまとまり具合、いろんなことを総合して忖度抜きで”No.1”だと思っております。これまでの丸山先生のご尽力に深く敬意を表します。そして、バトンを受け継いだ柳田先生のこれからのご努力に大きなご期待を申し上げます。

現役諸君も体育局の一員として、OB諸氏に負けないように男っぷり、女っぷりを上げて頑張っていってください。体育研究室の一員として、皆様のその誠実な努力をしっかり応援させていただきたいと思います。

本日は、ほんとうにおめでとうございます。

祝辞

千葉県ソフトボール協会会長（日本ソフトボール協会評議員）
扇原 賢二 様

40周年誠におめでとうございます。

私がソフトボールに携わってから約45年くらい経っております。その間にご縁がありまして、東京理科大学にて大会があった時、球審を務めさせていただいた記憶がございます。その当時はまだ東京理科大学のグラウンドは凸凹が多く、木が多くて、フェンスもない時代でした。そういった時代から丸山先生とおつき合いをさせていただきました。おそらく、丸山先生とおつき合いさせていただかなかったら今日の私はないと思います。

私は丸山先生の「ロマン」という言葉、その言葉を今まで解釈する余裕がなかったんですが、昨年6月に満74歳になり、仕事をやめました。その後、この「ロマン」という言葉が非常に気になって、まさにこれから自分の「ロマン」を求めていこうと思うようになりました。平均寿命からすると、人生の残された時間は10年くらいです。人生の最後のロマンを、本日こうしてみなさんといいご縁で結ばれたことを大事にして追い求めていきたいと思います。

東京理科大学ソフトボール部のますますのご発展を祈念しております。素晴らしい柳田監督の下、日本一を目指して頑張ってください。

祝辞

千葉県ソフトボール協会理事長（日本ソフトボール協会理事）
井之上 哲夫 様

40周年誠におめでとうございます。

私は理科大には思い出がいっぱいあるんです。1977年にこの部が創部。私はその年に教員になっております。私は今、日本ソフトボール協会の記録委員長（理事）をやっていますが、当時からスコアラーをやっていました。初めてスコアラーとして大会に行ったのが理科大で開催された関東大会でした。その最初の試合は、なんと19対1でした。試合時間は4時間になっていました。忘れられない想い出です。

その後、県協会事務局長も務めることになりましたので、自分が担当した初めての仕事が理科大で開催された春のインカレ予選でした。何もわからないところで自分が仕切ることになって、その時にさあ困ったぞと思ったら、もう何もしなくていいんです。丸山先生が全部やってくれました。くっついているだけでいい。そういう思いでがずっとあります。

丸山先生との長い歴史の中ではいろいろなことがありました。2時間の県協会理事会のうち１時間は私と丸山先生の議論ということもありました。その結果、今はすごく良い形で協会がうまく回るようになりました。

丸山先生のロマンと私のロマンは違います。でもやっぱり、向かう道は変わらないということで、お互いに刺激しあうことで結果的に良い結果を生んだということです。皆さんも是非議論し合って大いに頑張って、日本一を目指してください。本日はおめでとうございました。

それから皆さん、今年の8月2日～12日は、旅行は是非千葉へお越しください。

（2018年8月2日～12日、第16回世界女子ソフトボール選手権大会が千葉県で開催されます。）

祝辞

東京理科大学体育局ソフトボール部学内指導員
東京理科大学神楽坂校舎財務部部長
和泉　巧 様

40周年誠におめでとうございます。

この部と関わったのは、私が昭和61年に東京理科大学に就職し、平成2年に野田校舎学生課に異動になったときでした。そのとき、最初の仕事が夏休みにやっております少年野球大会でした。少年野球大会運営に際し、ソフトボール部の方々には沢山手伝っていただきました。大変お世話になりました。

その時に丸山先生とはじめて出会いまして、それまで経理課におりましたので、大学の先生と接する機会が少なかったわけです。野田校舎学生課に異動になって初めて先生と接して、大学の先生ってこういった方なんだと感じたのを覚えています。そういったご縁があり、丸山先生からソフトボール部の学内指導員をやってもらえないかという話をいただきました。私はソフトボールの経験がありませんのでとお断りしましたが、丸山先生から「とにかく年に1回のコンパと全国大会に出たときの応援に来てくれればいいんだ」と熱くお誘いいただきましたので、お引き受けしました。できる限りこの約束は守ろうということで、現在も続いております。私はこれからもインカレ出場した際には応援に駆けつけたいと思っておりますので、ぜひ皆さん毎年インカレに出てください。期待しております。

祝辞

東京理科大学体育局ソフトボール部名誉会員
くすりの福太郎（薬剤師）
網仲 幸男 様

40周年誠におめでとうございます。

丸山先生はほんとうに良心の塊だと思います。試合の後の懇親会でのことです。当時学生の自殺が話題となっていたこともあり、部員・OBに対して、丸山先生が、「俺にいつでもいいから電話しろ、何か困ったことがあったら電話しろ」と真剣に語っておられました。その隣に馬場錬成先生がおられて頷いておられる。私は涙が出ました。

大学院に合格した際には丸山先生に報告に行きました。そうすると「ユニフォームを作りましょう。大学院生になったら選手登録して試合に出られる」。え？まさかと思いましたが、ユニフォームを作りました。東日本インカレでの東京学芸大学戦に代打で出場させていただきました。打球はライトに抜けそうな勢いでしたが、二塁手のファインプレーに阻まれ、アウトになりました。その時、東京学芸大学の選手を含む会場の皆が拍手してくれ、非常に感動いたしました。このようなかけがえのない経験も、やはり丸山先生と出会ったからだと思います。皆さんも、丸山先生がおられなければ今ここに集まっていないのであります。一期一会、いい言葉ですね。

学生諸君に言わせてもらいたいことがあります。困ったことがあったら、特に就活で役に立つようなOBがいたら電話しましょう。連絡とってみましょう。私は構わないと思います。この場で出会った以上、もう仲間です。ソフトボール部を通じて出会った人達が先輩であろうが後輩であろうが、もう仲間と思って、自分のこれからの人生の大きな味方とするべきです。ますますのご発展をご祈念いたします。

祝辞

株式会社ハイングラフ 専務取締役
佐藤 弘之 様

この度は誠におめでとうございます。

私は昭和51年工業化学科に入りました。初代OBの方と同じ工業化学科出身でございます。大学2年目の時に丸山先生が赴任されまして、丸山先生の授業を受けた第1期生であります。それからずっと縁が続いておりまして、いろんな進路相談等しました。卒業する時に先生に教員になりたいというふうにお話ししたところ、「是非それを貫いていけ」とおっしゃっていただきました。が、その年に今の家内と知り合いました。家内は昭和51年の物理学科入学で同じ理科大卒業なんです。家内の家業が新潟市の印刷業でした。

それで今、印刷業を営んでるわけであります。あの時、丸山先生は「自分の道を行くんだ」と勧めてくださったんですけど、今となっては丸山先生の言うことを聞かなくて良かったなと(笑)。

その後、仕事を通して丸山先生、清岡先生、柳田先生には、大変お世話になっております。そして、こうしてソフトボール部に関わる仕事をさせていただいて、皆さんとご縁を持つことができたということにほんとうに感謝しております。皆様とのこのご縁を大切にさせていただき、いつまでも理科大ソフトボール部の応援団を続けさせていただきたいと存じます。本日は、ほんとうにおめでとうございました。

祝辞

ふるさと五兵衛
増尾 直文 様　信子 様

40周年おめでとうございます。

ふるさと五兵衛はソフトボール部の皆さんのおかげで、昨年35周年を迎えることができました。私は29歳で独立開業以来、皆さんとお会いできることを励みに店を続けてこられました。今後とも陰ながら応援しておりますので宜しくお願いいたします。ご卒業されてからも皆さんそれぞれの『日本一のロマンを求めて』のご活躍を願っております。

東京理科大学ソフトボール部　万歳！！

祝辞　人生の教科書「ソフトボール部」

二代目ＯＢ会長　小澤 悦夫（第３代）

東京理科大学体育局ソフトボール部創部40周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げるとともに、当クラブに関わっていただいておりますすべての方々に感謝申しあげます。

昭和52年9月1日に東京理科大学にソフトボール部が誕生し、私はその翌年に東京理科大学に入学しました。ソフトボール部が数あるクラブの中で一番輝いていましたのでソフトボール部に入部することを決心しました。その時から現在に至るまで、ソフトボールを通して学ぶことばかりであり、私の「人生の教科書」であります。

学生時代を思い返すと、「全国制覇のロマンを求めて」という大きな夢物語に向かって、金沢で開催される全日本大学選手権で1勝することを目標に練習に励んでいました。全日本大学選手権1回戦の試合会場は前日に降った雨のためグラウンドのいたる所に水溜りができている状態でした。地元のボランティアの方々や各大学の1、2年生の懸命なグラウンド整備のおかげでグラウンド状態は良好となり試合を行うことができ、公式戦初勝利を上げることができました。そして、ベスト8へ進出しました。勝利の瞬間には何とも言えない感動と感謝の気持ちがこみ上げて来たことを今でも忘れません。試合ができたのも、監督、先輩方々の指導のおかげ、大会関係者の努力のおかげ等々すべての方々に感謝ばかりでした。

クラブ活動をとおして努力と感謝の大切さを学び、現在においても東京理科大学体育局ソフトボール部から学ぶことばかりであり、常に「人生の勉強」をさせてもらっています。

現役の皆様もクラブ活動をとおして人生の勉強をし、人として「日本一のロマンを求めて」を合言葉に努力しましょう。ソフトボール部のさらなるご活躍を心から祈念しております。

創部期のソフトボール部

祝辞 「男を磨け！」 -1980年4月　野田グラウンドで-

三代目ＯＢ会長　瀬谷 光俊（第５代）

浪人中、怠惰な生活をしながら予備校通いをし、運よく東京理科大学理工学部建築学科にたどり着いた私が、「何かしなければ」とたまたま入ったソフトボール部で何日目かに聞いた丸山克俊先生の冒頭の言葉。「聞いた」と失礼な言い方をしたがその時は「聞いた」だけなのだ。ただ、その言葉が頭から離れなかったことは覚えている。ある種の衝撃だったのだ。

何日かの時間が経った後、考えても、これまでにこんなに激しい言葉で、目で、体全体で話す大人はいなかった。親、親戚、中高の恩師、知人。動揺した。この言葉を体現する丸山先生とソフトボール競技そのものの魅力で5年間の学生生活を野田でおくった。もちろん建築を学んで、今は建設業に身を置いて33年になる。

これまで「男を磨け！」は時々現れて「男を磨けているか！」と自身に問いかけてきた。事が順調に進んでいるとき、行き詰まったとき、失敗したとき。新しい事を進めるとき、これまでのやり方を変えるとき、止めるとき。丸山先生のご尊顔とともに頭に浮かんでくる。

「はい、磨いています」と答えられることは、多くはなかった。ほとんどは「磨いているつもりです」、「わかりません」なのだ。それでも、その問いかけが大事な心の儀式となってこれまで歩んで来た気がする。これからも「男を磨け！」は「人間を磨け！」となって私の節目に出てくるはずだ。1980年4月、野田グラウンドの円陣での言葉は「聞いた」ではなく「伺った」でもなく、私にとって「金言をいただいた」であったと深く感じている。感謝。

東京理科大学ソフトボール部創部40周年、おめでとうございます。そして、これまでほんとうに多数の方々のご理解とご支援を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。

丸山克俊先生の激しいまでに熱いご指導とそこに集まった300名近い学生、ご支援賜った多くの方々の思いが40年の歴史となりました。この部に関われていること、関わり続けられていることの幸せを感じております。

そして、これからは柳田信也先生とその志を一つにする学生諸君が、東京理科大学ソフトボール部の次の歴史を築いてくれると期待しております。我々は「日本一のロマンを求めて」人間を磨き続ける集団であり続けたいと願って止みません。